



## 「あなたにとつての「親水」とは。」

水との親しみ方は、人それぞれの好みやライフスタイルによつて異なります。びわろ通信では、琵琶湖岸のなぎさ公園を訪ね、初夏の二日を水辺で過ごす人たちのさまざまな「親水」をレポートしました。



森本さん(2家) (大津市在住)

家の近くには、水遊びのできるような場所が少ないので、今日は弁当持参で来ました。もうそろそろ帰る時間なんですけど、息子がいやがって水から出ないんです(笑)。やっぱり、水のそばにいただけで大人も気持ちよくなるし、子どももふだんのストレスが発散できるみたいです。

吉田さん(夫妻) (草津市在住)

毎年、夏になるとここでタープを張ってのんびり過ごします。休日に思い立って、夫婦で来ることが多いですね。何をするといいかわからなく、ただ「コーヒ」を沸かして本を読んだり、昼寝をしたり。計画を立てて友だち同志でいきやかに遊ぶのも楽しいけれど、生活の延長としてこんな場所で水辺

の景色を眺めながらゆっくりできる時間をもてるのが最高の贅沢ですね。

日本フィンランド学校

校長レイヤラウミオさん(大津市在住)今日は琵琶湖博物館の帰りに生徒たちと来ました。フィンランドにもたくさん湖があって、その数は約6万といわれています。だからフィンランド人は水と接することをとても大切にしています。真冬でもサウナ風呂に入りながら湖で遊んだりします。もちろん、子どもたちも水遊びが大好き(笑)。毎年、5月くらいから琵琶湖に来てみんなで楽しく遊ん



なぎさ公園にて

このほかにも、釣りやジョギング、ウィンドサーフィンをする人やゆっくりと散歩をする人など、みなさん思い思いのスタイルで水とのふれあいを楽しんでいらっしゃいました。



### 来館者のみなさまに「親水」について、おたずねしました。

「最近、水辺に出かけたことがありますか」という質問に対し、8割を超える方が「ある」と答え、「水辺での過ごし方」については、散歩、水遊び、ウォーキング、ピクニックに人気が集まりました。さらに、「行ってみたい水辺の場所」としては、湖北という回答が最も多く、身近な水辺に魅力を感じている方が多いことが分かりました。

